国立天文台研究交流委員会　2008年 2月策定
2014年8月改定
2017年11月改定

国立天文台客員教授等報告書

受入教員　プロジェクト名：　天文情報センター　　氏名：　縣　秀彦

客員氏名：　Diaz Merced Wanda

称号：　客員教授　客員准教授　○客員研究員（○をつける）

期間　2019年7月17日　～　2019年12月27日

Ⅰ．以下の項目について、客員教授等本人が記入してください。
（客員研究員へのヒアリングにより、受入教員が記入しました。）

［1］主な活動と成果（当初の計画についても記入すること）※学会等での発表、学会誌等に掲載するなどされた場合は（別紙）にご記入ください。

（共同研究）
2019年11月12日～15日に国立天文台三鷹本部にて開催されたIAUシンポジウム358「Astronomy for Equity, Diversity and Inclusion － a roadmap to action within the framework of the IAU 100th Anniversary」のSOC Co-Chairsとして渡部潤一副台長と共に、本シンポジウムの企画・運営を監督した。このシンポジウムには31か国から126名の参加があり、全体の運営はOAO室のLina Canasが中心となってLOCの仕事を担当し、SOCとの協力の下、成功裡に終了することが出来た。本シンポジウムの準備や運営を中心的に行うことを主目的に、国立天文台三鷹本部に約半年間滞在し、IAU/OAOと協力して、その他のIAU事業（特にIAU100関連事業）も分担した。

（教育）
国立天文台天文情報センターが主催する「Tea talk」（ほぼ毎月開催されている広報・アウトリーチ・教育に関する台内勉強会）にて、2019年9月3日講演を行った。講演の内容は天文教育に関する自身が発案した新しい教授法についてである。
また、2019年12月24日開催の国立天文台談話会にて、音で分析する天文学手法について講演した。その他、国内外の共同研究者（特に創価大学）と共に日常的に天文教育に関する教育や議論を実施し、台外でも複数回の講演を行った。

（その他）
日本における活動は、24 December 2019付けでNatureに取り上げられた。
https://www.nature.com/articles/d41586-019-03938-x?fbclid=IwAR16rLfvh9_sv96f_o4UXkKXGY3ktFsBtSYckEiNgb_EjNxnviRKUWWm7Z0

［2］本制度に対する意見、要望など

特に無し

Ⅱ. 以下の項目について、受入教員が記入してください。

[3]本制度に対する意見、要望など
本人はより長期の滞在を希望していた。少なくても1年間滞在すれば、滞在中に査読論文を仕上げることが出来たのにと残念がっていた。暦年を超える滞在の際、住民税が発生するなど、滞在外国人にとっては不利益を生じることもあり、滞在スケジュール調整が難しかった。 サポートディスクの白土さんやOAO室のLina Canasさんはじめ国立天文台職員からの支援は素晴らしいものがあり、多くの謝意を残して離国されたが、台内の施設のバリアフリー対策や、日本語でなおかつ盲目の方が読めないフォーマットの提出書類や事務作業が多く、今後の国立天文台でのインクルージョンを進める上で参考となるまたは改善すべき事項がはっきりしたことは今回の滞在の成果の一つとも言える。